

リニューアルについて

目 次

1. パナソニック GHP リニューアルの考え方	
(1) 基本方針	J- 2
(2) 配線の再利用（当社旧GHPをリニューアルする場合）	J- 2
(3) リニューアルにおける室内ユニットの取付寸法 （4方向・2方向天井カセット形）	J- 2
(4) 室内ユニットの再利用時の注意点	J- 2
(5) 冷媒配管再利用における配管工事での注意点	J- 2
(6) 洗浄レス方式	J- 3
(7) フラッシング洗浄	J- 6
2. 添付資料	
(1) 「GHP リニューアルチェックリスト」	J- 8
(2) 「冷媒配管再利用における洗浄剤での配管洗浄について」	J- 9
(3) 「パナソニック GHP 冷凍機油一覧表」	J- 10
(4) 「夏季日中における暖房フラッシング洗浄実施について」	J- 11

(1) 基本方針

いくつかの条件を満足する必要がありますが、“洗浄レス”方式でのリニューアルを基準とします。
※旧システムについて、洗浄レスでのリニューアル対応が可能かチェックシートによる診断が必要です。

●チェックシートの主な項目

①冷凍機油種の確認

【適応油種】既設三洋製 GHP 全て対応

スニソ : 3GSD(-T)、4GSD(-T)
PAG油 : HP-5S、HP-7、DH-PR
エーテル油 : FV32S

②配管条件（配管サイズ・配管長・分岐方法）の確認

③既設配管の耐圧は液管3.5 MPa以上、ガス管3.3 MPa以上必要です。また、配管の内厚、分岐管の耐圧が基準を満足することが必要です。

④冷媒系の不具合履歴（冷媒系の金属磨耗粉の混入）

⇒不具合経歴ありの場合、冷凍機油の色相チェックを実施し、洗浄レスの範囲外の場合フラッシング洗浄を実施

洗浄レス方式が不可の判定であっても、配管サイズ等を満足すれば、従来方式の“フラッシング洗浄”方式でのリニューアルが可能です。

洗浄レス方式とフラッシング洗浄方式の概要説明図を次のページに示します。

室内ユニットの再利用は、GHP室外ユニットが室内ユニットとの通信により制御を行っており、旧システムとリニューアルされる新システムでは、制御方法および通信方式が変更されているため一部の機種を除き再利用できません。

(2) 配線の再利用（当社旧GHPをリニューアルする場合）

- ①A・B形の通信線を再利用する場合、室内—室外通信線は8芯のうち2芯を使用し、残りは束ねてアースとします。2線は、無極性ですが、使用する線を間違わないように線番管理してください。リモコン線およびツイン形の室内ユニット間通信線は、オプション品の線径が細く、現地での圧着対応が困難なため新規とします。
- ②C形以降の通信線は、再利用が可能です。

(3) リニューアルにおける室内ユニットの取付方法（4方向・2方向天井カセット形）

天井カセット形室内ユニットを入れ換えると、新旧で外形寸法の違いによる天井穴外観不具合が発生する場合があります。下記対応を考慮してください。

- ①天井張り替えによる対応
②ワイドパネルによる対応：標準パネルより大き目のパネルで開口部をカバー（4方向天井カセット形）

(4) 室内ユニットの再利用時の注意点（形名は三洋品番）

室内ユニットの再利用は下記のとおりとします。

- ①J1形以降の機種は、そのまま使用可能です。
②G1、G2形、H1形は本体電動弁座が腐食し、弁漏れを起こす恐れがあるため、外付電動弁キットを追加し、本体電動弁は全閉にします。
③F2形以前は、通信仕様が違うため使用できません。
④H形以前の機種は、フラッシング洗浄が必要です。
⑤室内ユニットは、室外ユニット交換から13年以内に交換するよう喚起注意する。

(5) 冷媒配管再利用における配管工事での注意点

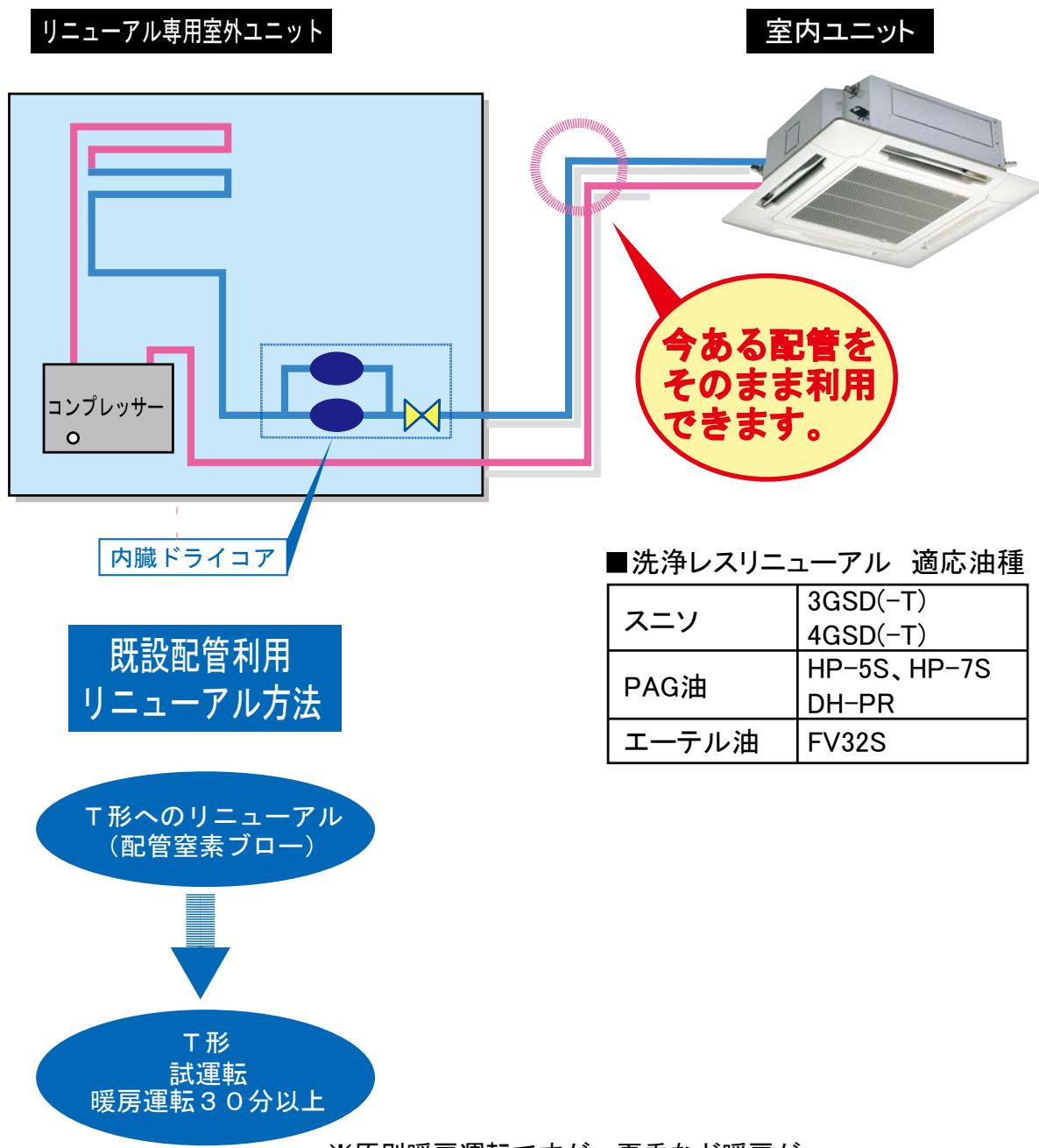
冷媒配管を再利用する場合、室外・室内ユニット交換工事を含めて配管の改造などにより配管の大気開放および溶接工事が発生します。GHPで使用しているPAG冷凍機油（HP-5Sなど）は吸湿性の高い冷凍機油であり、吸湿すると、コンプレッサーのメカニカルシールにダメージを与える懸念があります。

配管再利用条件としてドライコアを設置しておりますが、吸湿したオイルからの脱水性能はほとんど期待できないため、付着冷凍機油に吸湿させないことが必須条件となります。

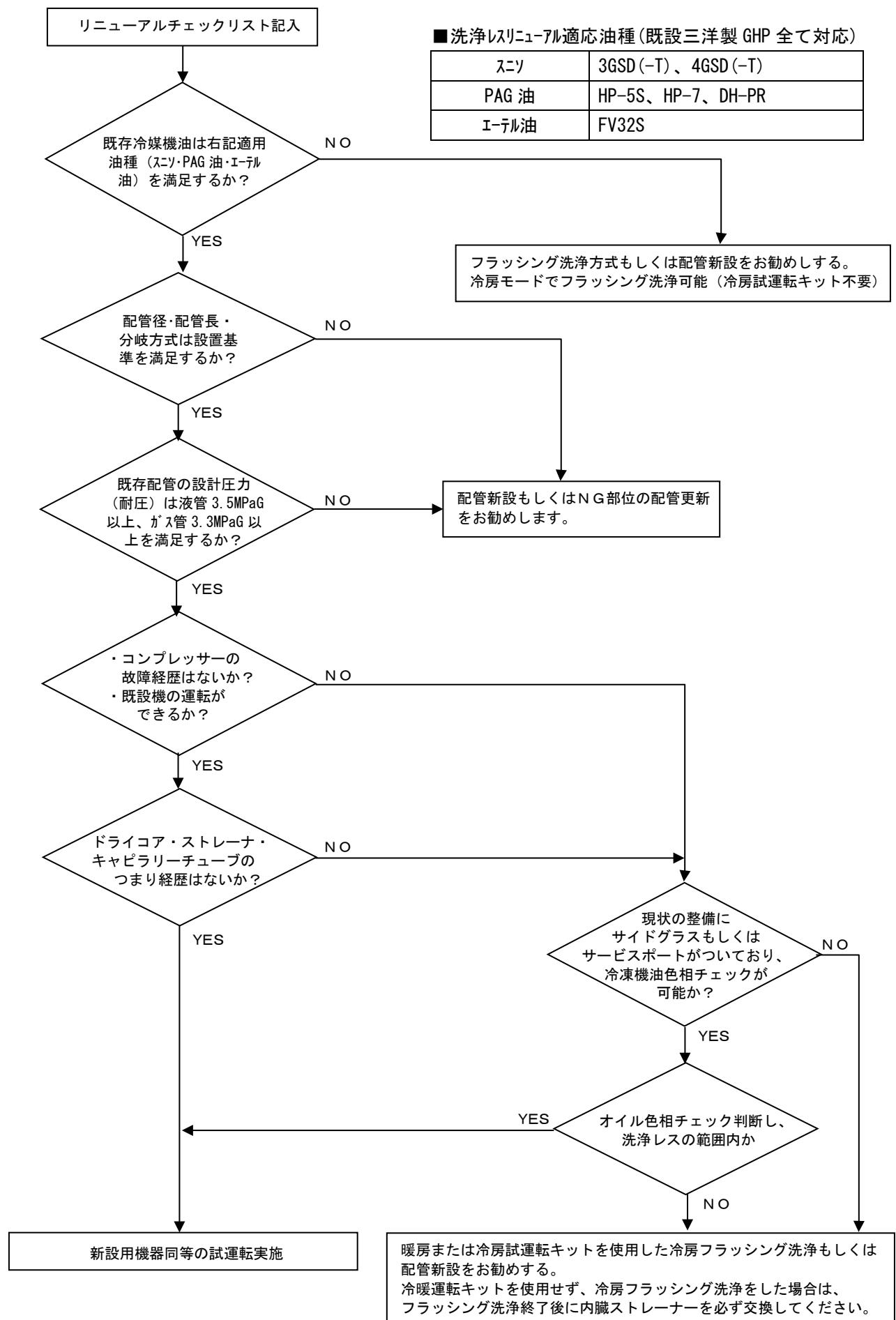
また、ろう付け作業中など配管内が大気に曝されている間は、窒素置換など配管中に水分やゴミが浸入しないように、養生を行わなければなりません。

(6) 洗浄レス方式

●洗浄レスリニューアルイメージ図

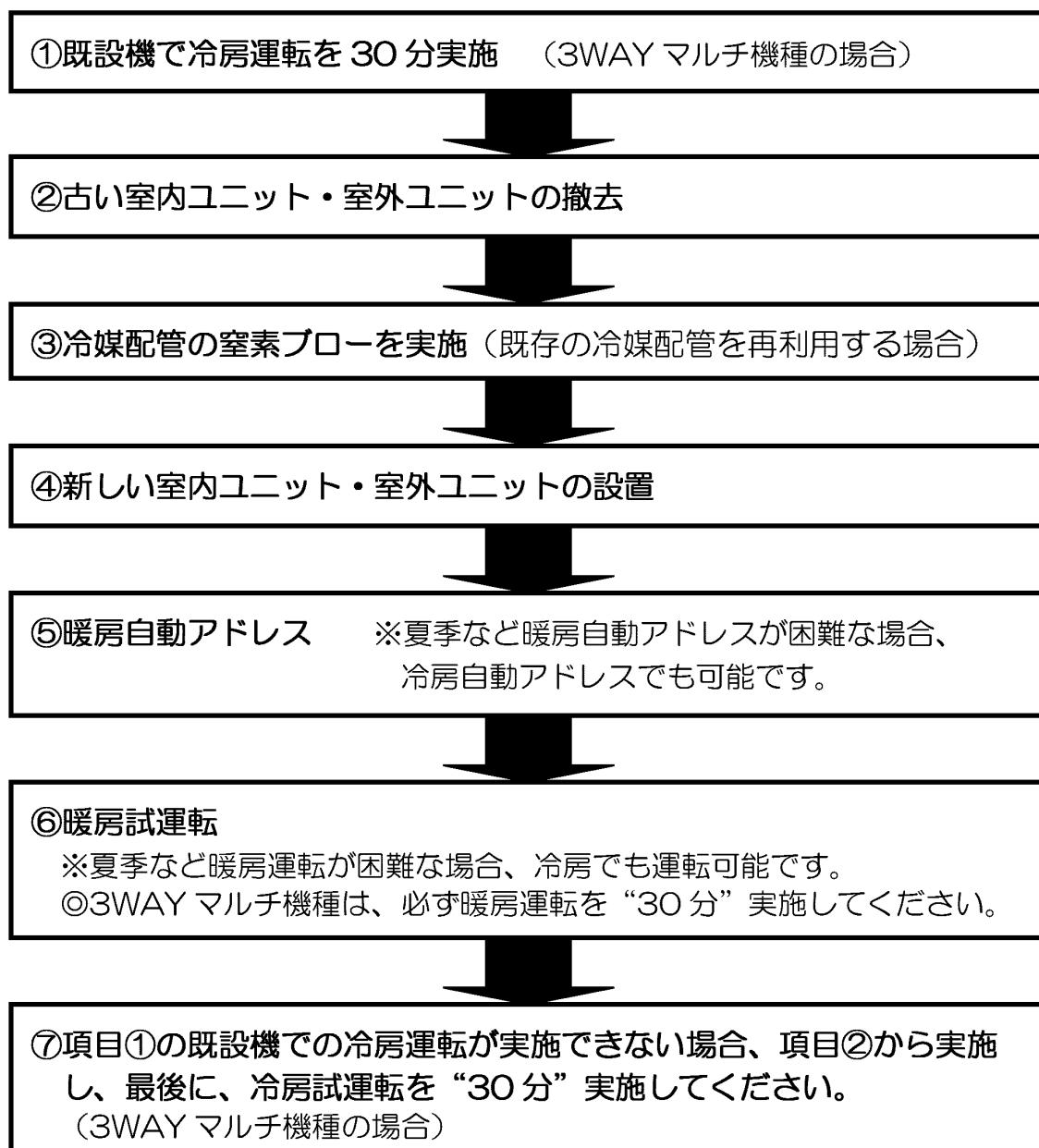


①洗浄レス リニューアルフロー



②洗浄レス リニューアル手順

下記のフローチャートに従って作業を実施してください。



洗浄が必要な場合は、パナソニック産機システムズ(株)
にお問い合わせください。

(7) フラッシング洗浄

①洗浄について

a. 洗浄剤による配管洗浄は、基本的に禁止します。

添付資料2「冷媒配管再利用における洗浄剤での配管洗浄について」参照

b. パナソニック推奨配管洗浄方式は、オイルフラッシング洗浄方式による新冷凍機油での共洗いによる旧冷凍機油減量方法とします。

1) 概要

リニューアルする旧システムで、旧冷凍機油を抜き油（初期充填量の約85%を抜き油できる）し、新冷凍機油を補油（初期充填量の約90%）した状態で旧システムを運転します。配管中に付着する冷凍機油は前記混油率に従い、旧冷凍機油の残油量は低減します。このサイクルを3回繰り返すと、配管内に残留付着する冷凍機油に含まれる旧冷凍機油量および汚れ量は、要求付着限界量（下表）以下減量できます。

「要求付着限界」

項目	値
残留付着油分量	配管長およびシステムの停止条件によって異なるが、冷凍機油充填量の5～10%が配管中に付着残留している。（冷凍機油初期充填量5.2リットルの場合の残留油量は240g以上となる。）
要求付着限界量	日冷工基準（システムで5,000ppm）より、配管中に付着する旧オイル不純物として1,250ppm以下とする。（冷凍機油初期充填量5.2リットルの場合の要求付着限界量を6gとする）

2) 作業

本作業は、パナソニック産機システムズ（株）で作業受託体制とします。

※旧システムでのフラッシング洗浄ができない場合は、リニューアル機に入れ換え後でも洗浄は可能です。

②フラッシング洗浄方式

新冷凍機油によるフラッシング洗浄方式



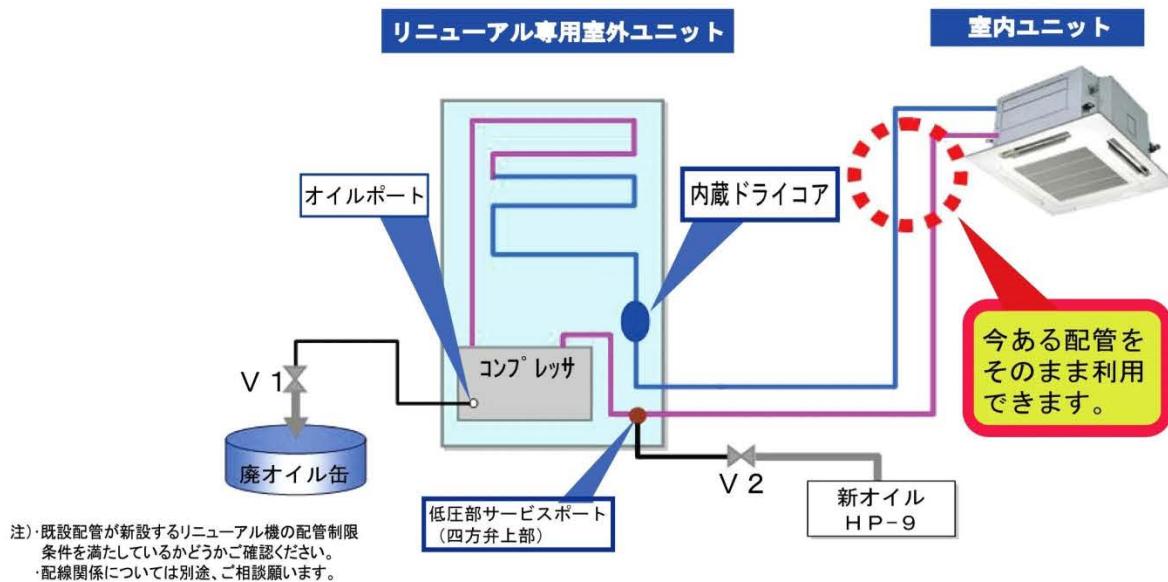
リニューアル方法

- ①冷媒回収後、既設の室内・外機を撤去します。
- ②既設配管を窒素プローブにより、配管内部のオイルを出来るだけ取り除きます。
- ③リニューアル用の室内・外ユニットに入れ替えます。
- ④試運転時にフラッシング洗浄※を実施します(約2時間)。
※詳細は右記参照

フラッシング洗浄は、当社全国サービス拠点にて対応可能です。

- 1.暖房ポンプダウンを実施します(室内機側に冷媒を溜めます)。
※暖房ポンプダウンが不可能な場合は、冷媒回収を行う必要があります。
- 2.図中V1バルブを開いてコンプレッサのオイルポートから、オイルを抜きます。
- 3.図中V1バルブを閉じ、V2バルブを開いて新オイルを封入します。
- 4.ポンプダウン解除後、暖房運転を20~30分程度行います。
(※必ず暖房運転で行ってください。)
- 5.1~4の作業を4回繰り返して終了です。

●フラッシング洗浄方式イメージ図



冷房試運転キットを設置し冷房試運転で行う場合

- 1.冷房運転を20~30分程度行います。
- 2.暖房ポンプダウンを実施します(室内機側に冷媒を溜めます)。
※暖房ポンプダウンが不可能な場合は、冷媒回収を行う必要があります。
- 3.図中V1バルブを開いてコンプレッサのオイルポートから、オイルを抜きます。
- 4.図中V1バルブを閉じ、V2バルブを開いて新オイルを封入します。
- 5.ポンプダウン解除後、冷房運転を20~30分程度行います。
- 6.1~4の作業を4回繰り返します。
- 7.冷房試運転キットのストレーナーを交換して終了です。

2.添付資料

(1)「パナソニックGHPリニューアルチェックリスト」

1. 本チェックリストは、業務用空調システムをパナソニックGHPにリニューアルする場合において、既設冷媒配管および配線の再利用可否等の判定を行う場合に適用する。
2. チェックの主旨は、(①旧システムの施工瑕疵による不具合、②冷凍機油不一致による不具合、③配管制限適合可否による空調不具合)の防止である。
3. [判定項目]のチェック結果が全て「Y」、もしくは「N」があつても正位置を施すことで総合判定〇とする。

[チェックデータ表]

物件名		機種		型式		基礎寸法(幅*奥行*高さ*または天井設置部寸法(幅*奥行*高さ)		主管サイズ、長さまたは天井設置部寸法(幅*奥行*高さ)		ラッキング状態		電源線サイズ・芯数		線種		断線・絶縁等		ドレン状態	
既設機種 種類	室外機種名	*	*	*	*	/	/	m	良 不良	—	芯			断線	絶縁 正常	断線	絶縁 正常	良 不良	良 不良
	室内機種名	1	*	*	*	/	/	m	良 不良	—	芯			断線	絶縁 正常	断線	絶縁 正常	良 不良	良 不良
		2	*	*	*	/	/	m	良 不良	—	芯			断線	絶縁 正常	断線	絶縁 正常	良 不良	良 不良
		3	*	*	*	/	/	m	良 不良	—	芯			断線	絶縁 正常	断線	絶縁 正常	良 不良	良 不良
		4	*	*	*	/	/	m	良 不良	—	芯			断線	絶縁 正常	断線	絶縁 正常	良 不良	良 不良
		5	*	*	*	/	/	m	良 不良	—	芯			断線	絶縁 正常	断線	絶縁 正常	良 不良	良 不良
		6	*	*	*	/	/	m	良 不良	—	芯			断線	絶縁 正常	断線	絶縁 正常	良 不良	良 不良
		7	*	*	*	/	/	m	良 不良	—	芯			断線	絶縁 正常	断線	絶縁 正常	良 不良	良 不良
設置年および運転時間		年	hr	室外ユニット	上 下	室外ユニットが定期メンテナンス		m	定期メンテナンス										
冷凍機油種		—	—	室内ユニット高低差	室内ユニット高低差	室内ユニット高低差		m	冷媒系統にかかる故障履歴等										
既設系統概略図		添付資料	あり	なし															
※汚れ・漏れ等ある場合はその箇所も図示																			

内容		判断基準		内容		判断基準		内容		内容	
既設システム冷凍機油はスニックGHP(-T)、4GS(-T)、PAG油[HP-5S、HP-7、PR]、またはエーテル油[FV32SJ]である。 ※既設機はパナソニック(三洋、GHP)であればこの条件を満足します。	Y · N	既設システムの仕様書を調査して冷凍機油を特定する。	Y · N	既設システムの仕様書の仕様もしくは既設施工図もしくは現地調査により配管径・配管長・分岐方式を確認。液管分歧にはチーズを使用していないこと。リニューアル機の設置基準との適合を確認する。	Y · N	既設配管の設計圧力が液管3.5MPa(G)以上あるか確認。	Y · N	既設配管の設計圧力が液管3.5MPa(G)以上あるか確認。	Y · N	既設配管の設計圧力が液管3.5MPa(G)以上あるか確認。	Y · N
配管径・配管長・分岐方式は右記基準に適合する。 既設配管の設計圧力は右記基準を満足する。	Y · N	既設の空調機にて過去にコンプレッサのロック、ドライコア・ストレーナ・キャビラリーチューブの詰まりのトラブルを起こした場合に、左記冷媒回路部品交換有無。(パナソニック(三洋)GHPはパンテナンス業者にてアーリング)その他オーナーにアーリング実施。	Y · N	既設配管の設計圧力が液管3.5MPa(G)以上あるか確認。	Y · N	既設配管の設計圧力が液管3.5MPa(G)以上あるか確認。	Y · N	既設配管の設計圧力が液管3.5MPa(G)以上あるか確認。	Y · N	既設配管の設計圧力が液管3.5MPa(G)以上あるか確認。	Y · N
既設の空調機は新ユニットの配線に適合する。 二つがない。	Y · N	電源線および通信線の本数、線径は新ユニットの配線に適合する。	Y · N	電源線は600Vビニル電線・VV線を使用基準どする。通信線は動力線との併走がないことを確認。設備設計ガイド等参照。	Y · N	電源線および通信線は線番管理がなされている。もしくは管理可能である。	Y · N	配線の修正、または新設	Y · N	リニューアル時の管理が可能か。	Y · N
電源線および通信線は新ユニットと外形寸法が同一である。また、同一でない場合、天井張り換えもしくはワイヤーバルにて外形寸法変更に伴う対応方法でオーナーと同意する必要がある。 新室内ユニットは旧室内ユニットと外形寸法が同一である。	Y · N	天井張り替え、またはワイヤーバルを使用	OK NG	天井張り替え、またはワイヤーバルを使用	OK NG	対応可能である。	OK NG	OK NG	OK NG	OK NG	OK NG
総合判定		○ ×									

(2) 「冷媒配管再利用における洗浄剤での配管洗浄について」

1. 洗浄剤での配管洗浄可否

結論：洗浄剤による配管洗浄は下記問題点があるため、パナソニック GHP システムにおける配管再利用方法としては基本的に禁止します。

2. 洗浄剤による配管洗浄の問題点

●想定される溶剤による配管洗浄方式

①洗浄剤の種類	配管洗浄の目的は配管に付着している冷凍機油の除去および、オイルスラッジや酸化スケール等の不純物除去である。係る目的のため、強力な洗浄効果を期待して塩素系溶剤が用いられる。また、洗浄作業性の観点から常温において液体である沸点 30 ~ 40 °C の溶剤が選定される。
②洗浄方式	上記洗浄剤を液体の状態で溶剤ポンプもしくは窒素等不活性ガスの圧力で配管系を循環させ、配管に付着するオイルを溶剤に溶け込ませると共に、オイルの粘着性によって配管管壁に付着しているごみ分を流出除去する。

●問題点

配管洗浄する GHP システムの冷媒配管は、マルチ配管・高低差・鳥居配管等複雑な配管系となっています。

前述した溶剤による配管洗浄では下記の問題があります。

課題	懸念内容
①洗浄剤の分流による洗浄効果への疑問	冷媒液の循環量に比べ、洗浄剤の循環量は大幅に少なく、配管抵抗により洗浄剤が流れない配管が発生して洗浄できない配管が残る懸念がある。
②洗浄剤の回収ができないための問題	冷媒配管はガス管と液管があり、高低差を伴っている。よって、配管洗浄のために配管中に充満された洗浄剤を洗浄後回収する方法は窒素ガス等により加圧吹き飛ばしになる。この方法による回収率は配管形状によって異なるが 70 ~ 90 % 程度である。残留した 10 ~ 30 % の洗浄液の回収は真空ポンプによるので、せっかく溶解したオイル分およびスラッジ分は溶剤だけが蒸発して回収されるため配管中に残留する。このため新しい洗浄剤で繰り返し洗浄が必要となる。繰り返し洗浄は 3 回以上必要で多量の洗浄剤が必要となるとともに、1 度使用した洗浄剤は再生（除油・除塵処理）しなければならない。また、真空ポンプによる回収は排気が大気放出となるので、環境観点から凝縮装置が必要である。
③洗浄剤が配管中に残留した場合の問題点	洗浄剤に塩素系溶剤を使用した時、その塩素によりコンポオイルおよびコンプレッサに与える腐食等悪影響が生じる。前記した通り、洗浄剤の最終回収は真空ポンプによる蒸発回収となるが、蒸発潜熱が供給されないと回収不十分となり不具合の原因となる。 洗浄剤として R-141b を使用した場合は比較的蒸発潜熱が小さいので、到達真密度 1 Torr 以下に真空引きできれば回収できていると判断できる。しかし洗浄剤として販売されている溶剤には R-141b が主成分でも塩素系溶剤を混合している場合が多く、蒸発潜熱が不足すると真空引きの見かけの真密度は充分でも洗浄剤が残っている場合があり、確認できない。後日深刻な不具合が生じるので注意が必要。

リニューアルについて

2. 添付資料

(3) 「パナソニック(三洋) GHP 冷凍機油一覧表」

機種	馬力	使用冷凍機油	機種	馬力	使用冷凍機油
SGP-CH150A	15 馬力	スニソ 3 G S D	SGP-CHP224G2	8 馬力	P A G 油 D H - P R
SGP-CH375A	15 馬力	スニソ 3 G S D	SGP-CHP280G2	10 馬力	P A G 油 D H - P R
SGP-CH355A	15 馬力	スニソ 3 G S D	SGP-CHP355G2	13 馬力	エーテル油 F V 3 2 S
SGP-CH300A	12 馬力	スニソ 3 G S D	SGP-CHP450G2	16 馬力	エーテル油 F V 3 2 S
SGP-CH301A	12 馬力	スニソ 3 G S D	SGP-CHP560G2	20 馬力	エーテル油 F V 3 2 S
SGP-CH450A	18 馬力	スニソ 3 G S D	SGP-CH224H1	8 馬力	P A G 油 H P - 5 S
SGP-CH375B	15 馬力	スニソ 3 G S D	SGP-CH280H1	10 馬力	P A G 油 H P - 5 S
SGP-CH355B	15 馬力	スニソ 3 G S D	SGP-CH355H1	13 馬力	P A G 油 H P - 5 S
SGP-CH450B	18 馬力	スニソ 3 G S D	SGP-CH450H1	16 馬力	P A G 油 H P - 5 S
SGP-CH375C	15 馬力	スニソ 3 G S D	SGP-CH560H1	20 馬力	P A G 油 H P - 5 S
SGP-CH300C	12 馬力	スニソ 3 G S D	SGP-CHP224H1	8 馬力	P A G 油 H P - 7
SGP-CH301C	12 馬力	スニソ 3 G S D	SGP-CHP280H1	10 馬力	P A G 油 H P - 7
SGP-CH302C	12 馬力	スニソ 3 G S D	SGP-CHP355H1	13 馬力	P A G 油 H P - 7
SGP-CH450C	18 馬力	スニソ 3 G S D	SGP-CHP450H1	16 馬力	P A G 油 H P - 7
SGP-CH375D	15 馬力	スニソ 3 G S D	SGP-CHP560H1	20 馬力	P A G 油 H P - 7
SGP-CH200E3	8 馬力	P A G 油 H P - 5 S	J 形以降		P A G 油 H P - 9
SGP-CH300E・E3	13 馬力	スニソ 3 G S D			
SGP-CH400E・E3	16 馬力	スニソ 3 G S D			
SGP-CH450E・E3	18 馬力	スニソ 3 G S D			
SGP-CH224F1	8 馬力	P A G 油 H P - 5 S			
SGP-CH355F1	13 馬力	スニソ 3 G S D			
SGP-CH450F1	16 馬力	スニソ 3 G S D			
SGP-CH500F1	18 馬力	スニソ 3 G S D			
SGP-CH224F2	8 馬力	P A G 油 H P - 5 S			
SGP-CH280F2	10 馬力	P A G 油 H P - 5 S			
SGP-CH355F2	13 馬力	スニソ 3 G S D			
SGP-CH450F2	16 馬力	スニソ 3 G S D			
SGP-CH500F2	18 馬力	スニソ 3 G S D			
SGP-CH560F2	20 馬力	スニソ 3 G S D			
SGP-CH224G1	8 馬力	P A G 油 H P - 5 S			
SGP-CH280G1	10 馬力	P A G 油 H P - 5 S			
SGP-CH355G1	13 馬力	スニソ 3 G S D			
SGP-CH450G1	16 馬力	スニソ 3 G S D			
SGP-CH500G1	18 馬力	スニソ 3 G S D			
SGP-CH560G1	20 馬力	スニソ 3 G S D			
SGP-CHP224G1	8 馬力	P A G 油 D H - P R			
SGP-CHP450G1	16 馬力	エーテル油 F V 3 2 S			
SGP-CH224G2	8 馬力	P A G 油 H P - 5 S			
SGP-CH280G2	10 馬力	P A G 油 H P - 5 S			
SGP-CH355G2	13 馬力	スニソ 3 G S D			
SGP-CH450G2	16 馬力	スニソ 3 G S D			
SGP-CH560G2	20 馬力	スニソ 3 G S D			

(4) 「夏季日中における暖房フラッシング洗浄実施について」

●はじめに

- ・室内の温度が高い夏季には冷媒圧力が高く高圧カットにより暖房フラッシング洗浄が困難となります。
- このため夏季に暖房フラッシング洗浄をスムーズの行うための要領です。
- ・複数系統設置の場合、室内外通信配線を冷媒系統毎に分け自動アドレス設定でエンジンが起動しないようにします。

●運転前の環境整備

- ・配管長が短い場合や、接続室内機容量・台数が少ないシステムの場合は、予め冷媒追加チャージ量を少なめに調整しておく、または冷媒追加チャージを行う前に暖房フラッシング洗浄を実施する。

●運転中の留意点

- ・室内ユニットは全数運転させる(暖房試運転モード)
- ・室内ユニット側の換気を十分行い、出来るだけ室温を下げる。
併設室内ユニットが存在し運転可能であれば冷房運転行い、出来るだけ室温を下げる。(暖房フラッシング洗浄前の機器での運転不可)
- ・夏季日中でも暖房運転は可能ですが、高圧回避運転に入りやすいため、できるだけ室温の上がりやすい時間帯を避けての暖房フラッシング運転が望ましい。(30°C以下が容易に運転できる目安)
- ・午前中や夕方など外気温度があまり高くない時間帯に窓を開ける等、換気をしながら運転する。

●どうしても連続暖房運転のできない場合の対応

- ・暖房運転 30分×4回 繰り返しができない場合、可能な限りの運転を行い計120分になるまで繰り返す。
- ・強制エンジン回転速度設定で最低回転に設定する。
- ・もしくは、冷房試運転キットを使い、冷房運転で行なう。